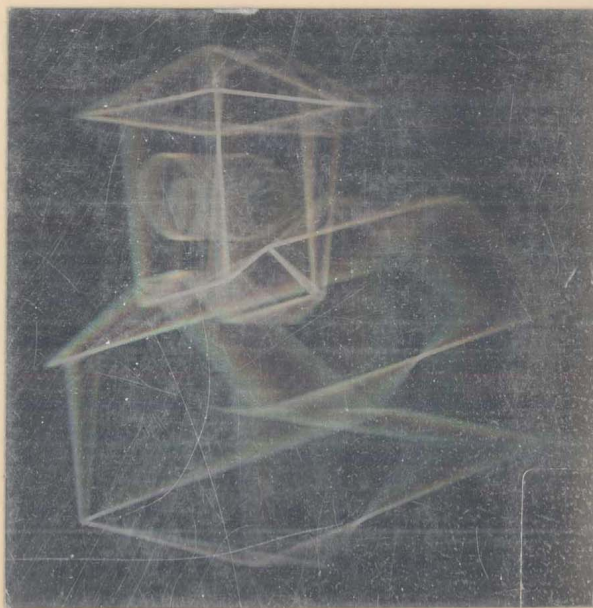


中国電脳世界

魚眼で覗いた

コンピュータ



(“模圧全息”の項参照)

青木 由直

魚眼で覗いた

中国電脳世界

青木 由直

著者略歴

青木由直（あおき よしなお）

1941年長野県に生まれる。1966年北海道大学大学院修士課程（電子工学科専攻）修了。講師、助教授を経て1979年同大学電気工学科教授、1987年同情報工学科教授となり現在に到る。この間1969年から1971年カナダケベック州ラバール大学留学。1983年より中国瀋陽工業大学（旧瀋陽機電学院）客員教授を勤め現在は同大学計算機学院客員教授も兼ねている。1978年以降中国へは15回以上訪問し、各地の大学、研究所で講義、共同研究を行ってきた。工学博士。

著書『マイクロコンピュータ講義』（共著・昭晃堂）、『BASIC 数値計算法』（コロナ社）、『波動信号処理』（森北出版）、『中国パソコンの旅』（エム・アイ・エー）等。

現住所 札幌市西区西野 6 条10丁目

魚眼で覗いた

中国電脳世界

1988年(昭和63年) 11月 3 日 初版発行

著 者 青 木 由 直

発 行 (株)共同文化社

〒060 札幌市中央区北 3 条東 5 丁目 株木ビル

電話 (011) 251-8078番

印 刷 (株)共同印刷

©Yoshinao Aoki 1988 Printed in Japan

定価1,200円

ISBN 4-905664-55-1 C 0130 ¥1200E

目次

第1章 四通の神話

1-1	人民政府のマイコン勉強会 (84・7・16)	8
1-2	中国コンピュータ事情 (84・8・18)	12
1-3	CG札幌—瀋陽 (83・10・3)	15
1-4	コンピュータ習字 (83・10・14)	20
1-5	中国語ワープロ (85・9・27)	24
1-6	ハングル文字ワープロ (86・8・30)	29
1-7	右脳タイピング (88・6・14)	34
1-8	中国版破産法 (86・1・11)	39
1-9	四通の神話 (87・11・24)	43

第2章 電 脳

2-1	表音訳と表意識 (80・10・15)	50
2-2	紙件? (81・4・2)	55
2-3	電 脳 (82・9・18)	60

2 1 4	己巳巳 (82 · 3 · 11)		65
-------	-------------------	-------	----

2 1 5	康熙字典 (未掲載)		69
-------	------------	-------	----

2 1 6	情報と信息 (未掲載)		73
-------	-------------	-------	----

2 1 7	信息 (87 · 6 · 8)		76
-------	-----------------	-------	----

第3章 魚 洗

3 1 1	北京声学研究所 (81 · 10 · 22)		80
-------	------------------------	-------	----

3 1 2	魚 洗 (81 · 11 · 10)		85
-------	--------------------	-------	----

3 1 3	編 鐘 (81 · 12 · 10)		90
-------	--------------------	-------	----

3 1 4	大鐘寺の大鐘 (81 · 12 · 28)		94
-------	-----------------------	-------	----

3 1 5	模压全息 (86 · 6 · 28)		99
-------	--------------------	-------	----

3 1 6	中国の剰余定理 (80 · 5 · 31)		104
-------	-----------------------	-------	-----

3 1 7	模糊数学? (87 · 4 · 24)		109
-------	---------------------	-------	-----

第4章 鷄鳴狗盗

4 1 1	鷄鳴狗盗 (80 · 12 · 26)		114
-------	---------------------	-------	-----

4 1 2	街の中の森林 (83 · 1 · 10)		119
-------	----------------------	-------	-----

4 1 3	不舍昼夜 (84・11・9)		124
4 1 4	劫機 (83・6・13)		128
4 1 5	気功 (83・8・6)		133
4 1 6	豊 (84・2・4)		138

第5章 田黄石

5 1 1	長江の珍獣 (81・11・21)		144
5 1 2	冬虫夏草 (82・10・8)		148
5 1 3	鼓山湧泉寺 (82・11・11)		152
5 1 4	田黄石 (82・12・25)		157
5 1 5	本溪水洞 (84・7・26)		161
5 1 6	廟とゲームセンター (87・2・4)		165

第6章 婦女能頂半遍天

6 1 1	門 (83・4・11)		170
6 1 2	辺疆 (83・8・25)		174
6 1 3	中国の日本の歌 (83・7・9)		179

第7章 専家達の国慶節

6 1 4	中国の軽音楽会 (85・8・16)		184
6 1 5	婦女能頂半遍天 (85・7・3)		187
6 1 6	連理の枝 (85・6・5)		190
7 1 1	インタプリタ (83・7・8)		194
7 1 2	瀋陽工業大学 (85・7・22)		199
7 1 3	黒龍江大学 (未掲載)		204
7 1 4	瀋陽の桜 (86・5・7)		209
7 1 5	学生寮のホテル (86・7・26)		214
7 1 6	手作り国際会議 (86・10・3)		219
7 1 7	電脳学会 札幌―瀋陽 (未掲載)		223
7 1 8	偉大なる遺産 (87・7・4)		227
7 1 9	専家達の国慶節 (87・10・14)		231

「瀋陽計算機学院」命名てん末記(86・8・21)	235
“計算機世界の新天地”の夢と現実	239
あとがき	257

(表紙のホログラムは表面の保護シー
ルをはがすと立体像が良く見えます)

第1章

四通の神話

1.1 人民政府のマイコン勉強会

瀋陽市人民政府と名前はいかめしいけど、いつてみれば市役所の看板。この看板のかかげてある建物内の会議室には札幌市と姉妹都市であることを物語る記念の旗や議定書が飾ってあって、ここで副市長以下市の幹部諸氏がマイコンの現状についての講義を聞くという勉強会の講師に駆り出された。

ここはひとつ札幌市民として札幌市の宣伝につとめるか、と構想が固まり出した札幌市のエレクトロニクスセンターやニューメディア時代のテレトピア都市を目指している同市の計画の一端なども話してみる。

同行の札幌市内にあるソフトウェアハウスのK社長も、自社の経験を土台に札幌におけるコンピュータ利用ビジネスのあれこれの披露に及ぶ。このくらい話せば先端技術企業の集積地としての札幌市のイメージも少しは高まったか。

それにしても三十名近くの瀋陽市のお偉方が勉強会で先端技術を理解しようとしている姿勢を見ると日中が逆転したような錯覚を抱く。もっともだまっていってもマイコン技術を取り入れて急成長

しようとする企業が輩出する日本に比べて、上の方で旗を振らねば物事が動かぬ中国の国情を物語っている、といえはそれまでだけど。

ともかくこの勉強会の熱心さをもってすれば、中国でのマイコン技術の展開は何かをもたらずだろう。多分人民のためのマイコン技術なのだろうけど、さてどんなものになるのかな。

(84・7・16)

札幌市エレクトロニクスセンターは一九八六年の十二月に落成している。これは札幌の研究開発型企業団地の札幌市テクノパークの中心的建物でもある。このテクノパーク及びエレクトロニクスセンターは、札幌市がテレトピア都市の指定を受け、その具体的な実現のため策定された「スノーピア」計画の一環として組み込まれて建設されたものである。

著者もその計画策定からエレクトロニクスセンターの運営まで関与した関係もあり、このエレクトロニクスセンターの落成記念にテレホンカードのデザインをした事がある。先端技術産業の集積地を目指しているからには、何か新しい技術でテレホンカードを作ってみたい、という事で写真のようなホログラム複製技術を用いたものを試みた。

このホログラムは「3-5」でも述べている方法によって作ったものであり、本書の表紙に印刷されているものがそれである。このホログラムを縮小してテレホンカード上に複製している。ホログラムの横



札幌市エレクトロニクスセンター
落成記念テレホンカード

に刷り込まれているのが札幌市エレクトロニクスセンターの建物であり、地上三階、地下一階の延べ面積約八千平方メートルの建物である。

このエレクトロニクスセンターは国内外からの見学者が多い。著者も何回か瀋陽市からの来訪者を見学のためこの建物へ案内した事がある。百分は一見にしかず、で中国からの見学者達は札幌市がこの建物と施設を作って新しい産業政策を展開し出した事に感銘を受けたはずである。

1-1 人民政府的微机学习班

「沈阳市人民政府」的挂匾威严肃穆，亲眼一看，其实它相当于日本市役所的牌子。在这所建筑的会议室里，装饰着和札幌市缔结姐妹城市的纪念旗帜，协议书。我作为由札幌市派遣的教师，在这里举办了有副市长参加的干部微机现状学习班。

我做为一名札幌市民，为给札幌做些宣传，在这里对札幌的电子中心，以及把新媒介时代的 teletopia 城市作为目标的这一札幌市部分计划进行了介绍。

同行的札幌市软件公司的K经理还介绍了该公司的发展经验，以及札幌市的微机应用，贸易等情况。通过这些情况的介绍，可给学员一些札幌是先进技术企业聚集地的印象。

看到这些三十名沈阳市政要人在学习班中学习先进技术的情景，虽然使我产生了一种日中逆转的错觉，但是与迅速发展企业辈出的日本相比，在中国还是有上面不指挥下面不干活的情况。

总之，这种学习班的热情，它将对中国的微机技术的展开，会起某种作用吧。这也许是为了人民的微机技术，究竟会产生什么样的结果呢？

112 中国コンピュータ事情

中国では農民がマイコンを売っている。農民に認められた部分的自由経済の恩恵は、万元（百万円）長者の都市近郊農民を輩出させ、彼らが香港あたりからマイコンを買い付け、工場や研究所に売ってさらに利益をあげているとのことである。

中国では現在のところ生活のなかにコンピュータがほとんど姿を現わしてこないのに、少ないテレビ番組にもコンピュータ講座が組み込まれている。少し前には大学でもコンピュータがないのに、ビデオによるコンピュータの言語教育が行われているのを見た。

中国の大型コンピュータは人口調査の名目で購入したIBMのものが各地にある。さらに今年あたりから大学や研究所で設置された分散処理型コンピュータもIBM・PC（パーソナルコンピュータ）ばかりが目についた。近い将来この国のコンピュータはIBM一色になるみたいで、日本としてはもつと対応策を考えるべきではないかとやきもきする。

中国のコンピュータ化の現状を見ると、四つの現代化は難事業であると思える。でもオリンピックの中国選手の活躍に目を向けると日本人としては少しばかり不安になる。なにせこの国は国



燕山大学のコンピュータ実習室

家事業にしてしまえば、資金と豊富な人材を注ぎ込んで多くのメダリストを養成するように大量のコンピュータエンジニアを養成して、日本の手ごわい競争相手になりそうな気がするものだから。

(84・8・18)

最近中国の大きな大学を訪問すると、多数のパソコンや端末の並んだコンピュータ技術実習室などに案内される。そして中国でのコンピュータ技術教育が急速に進行している現実を示される。

河北省の秦皇島市に一九八五年に創立された燕山大学を訪れた時も写真のように立派なコンピュータ実習室に案内された。大学創立二年でこれだけの設備をそろえ学生の教育を行なっているところを目にすれば、将来中国が指向する「電腦大国」へのプロセスが気になる日本人は著者だけではないまい。

1-2 中国的计算机状况

目前的中国，农民也开始经营微机了。这是由于允许农民一部分经济自由后，使在城市近郊的农民中，出现了大量的万元户，这些万元户把微机从香港购入，然后以更高的价格转卖给工厂或研究所。

虽然在中国生活中还没有普及计算机，但是在电视中已出现了计算机讲座的节目，不久前，虽然大学里还没有计算机，但是计算机语言的录相教学却在进行了。

中国以人口调查的名义，各地都购实了IBM大型机，最近的各大学，研究所里配置的分散处理机也都是IBM·PC型的。不久的将来，这个国家的计算机将会变成清一色的IBM。面临这个极待解决的问题日本方面应该尽快想出对策来。

看到中国的计算机现状，使人感到实现四个现代化也是很坚难的。但是，当看到中国运动员在国际奥运会上的拚搏时，却使我做为一个日本人感到有些不安。如果在这个国家里，象对国家事业那样的投入大量的资金和人材的话，就能象培养出许多优秀运动员一样，培养出大量的计算机技术人员，这样的话，这个国家就会变为日本的一个强烈的竞争对手。